

期間限定：びーのびーのからのお手紙 Vol.3

令和2年5月27日

びーのびーのをいつも応援して下さっている大事な方々へ 「どんな日々を送っていらっしゃいますか？」

ちいさなたね保育園 安江 文子

2月頃から新型コロナウイルス対策として、衛生管理や体調観察を最重要課題として行って早4か月…。その間に新園舎への引越し、卒園式、内覧会、開所式の中止、新入園児の受入れ、ひとつひとつの行事を大事に地域の方々、子ども達と執り行う予定が音を立てて崩れた4か月でした。緊急事態宣言が出て、現在登園する子どもは5人程度となってしまいましたが、ちいさなたね保育園は変わらずに開園中です！！緊張の連続で大変でも登園自粛をしている保護者の方から「保育園がやっているというだけでも安心します」とお聞きし、園を守っている意義を感じています。また、毎食の献立に困っているとの声もあり、レシピサイトにちいさなたね保育園のレシピが掲載されることになりました。保育園での離乳食やおやつレシピがたくさん見られます。ぜひ、「クックパッド ちいさなたね保育園」で検索してみてください！そして、園を守る心強い新しい仲間の保育士2名、栄養士1名、お互いの若かりし頃を知っている事務担当も増えました。

今後とも応援のほどよろしくお祈りします。



園児たちから大人気
マカロニきな粉
(クックパッドより)

お便り紹介

《守矢さんからのメール》

お手紙で、皆さんの様子お知らせ頂き大変ありがとうございました。子サポは活動を続けておられるとの事、ひろば預かりを見ていて本当に困っている方が多いのに気がつきました。

ひろばで子ども達と過ごしてからすでに2か月が経とうとしています。子ども達に遊んで貰っていましたので、〇〇ちゃんはどうしているかな、△△君はどうしているかな、と時々思いをめぐらします。トンネルづくりや三輪車あそび子ども達と一緒にしたいですね！

空いた時間、私は50年ぶりに再開したアマチュア無線で気を紛らわしています。交信相手とカード交換をするのですが、印刷した紙カードか、電子的に行います。ペンギンのカードは南極の昭和基地との交信です。

スタッフの皆さんやお子さんたち、またボランティアの皆さんと早く再会出来ることを願っています。

ボランティア 守矢 永司



(南極の昭和基地との交信カード)

ボランティアの守矢永司さんからメールを頂いたので紹介させていただきます。守矢さんは区外から週2回ボランティアに来ていただき、スタッフよりも早く来て、お庭や玄関回りのお掃除をしてくださったり、ひろばでは子ども達ととことん遊びこんでくださいます。子ども達は本当に守矢さんが大好きでママたちの信頼もものすごいです。スタッフにもいつも励ましの言葉をくださり、良かった点などがあると個別にメールをくださり、いつもパワーをいただいています。

港北区地域子育て支援拠点どろっぽ 白石 智子



COCOひよし

港北区箕輪町の「プラウドシティ日吉」は、2022年までに1300世帯が住む新しい「まち」。「エリアマネジメント」という新しい取組の下、地域の様々な方が利用できる地域貢献施設「ACTO日吉」があり、その一画で「子育て支援スペースCOCOひよし」を運営します。グループ預かり「まんまーる日吉」のほか、乳幼児期から学童期、地域の方に足を運んでいただけるようにいろいろなプログラムを企画中！オープン日は未定です。もう少しお待ちください。

地域remix 山口 麻津子



びーのびーのスタッフ家庭の小学生×大学生オンライン交流会

新型コロナウイルスの影響による休校と外出自粛要請で窮屈な生活が続いている子どもたちと社会との繋がりが減少している大学生をオンラインでつないで交流しようという企画。アクションポータル横浜が架け橋となり、神奈川大学山岡ゼミの学生達と行われています。学生は6名、家庭は10家庭。学生と子どもたちがオンライン上で集まり、ゲームやクイズ、そして自慢大会など毎回、学生さんが様々な企画を考えてきてくれています。最初は恥ずかしそうだった子も回を重ねる毎に積極的になる姿や、子ども同士相手を気遣いし協力する姿がみられます。当初の企画始動では予測していなかった嬉しい発見と効果。今は悩ましい環境ではあるけど「つながる気持ち」は止まらない、びーののでした。

港北区地域子育て支援拠点どろっぶ 館 裕香



* 神奈川新聞5月11日掲載
* フジテレビ「とくダネ」
5月13日取材

子育て家庭からのニーズ

緊急事態宣言もようやく解除となりましたが、特にG.W.が明けてからは、毎日のように子育て家庭からの相談が入るようになり、これまで耐えてきた心の叫び声がかぼれ落ちてきているようにも感じています。「今は夫としか話せない状況なので、他の誰かと話したい」「籠りきりの生活の中での子育てが辛い」「夫が在宅勤務を始めてからは家にもいられず行き場がない」と涙ながらに話す方もいました。お話を聴かせてもらっている中では、親子が閉ざされた環境の中で必要以上に密着して過ごさざるを得ないことに加え、他者との対話や自分の気持ちの発信すらもできずにいた現状をまざまざと感じさせられました。

拠点の相談機能が継続しているという意味でも、今の気持ちを話してもいいんだ、話せる人や場が地域にあるんだというメッセージをもっと強烈に伝えていきたいとも思っていますし、今、拠点としての存在意義が問われているようにも感じています。親子がこれまで過ごしてきた日常の一コマや本来のその人らしさを少しでも取り戻していけるような、そんなひとときを一緒に過ごし、一緒に創っていきたく願っています。

港北区地域子育て支援拠点どろっぶサテライト 横浜子育てパートナー 田之畑 有美

号外発行しています！

この手紙と同時に号外も発行しています。法人内の情報と港北区内地域の情報を掲載しています。港北区内にいるたくさんの子育て団体、子育てを応援して下さる方からどろっぶに届いた情報やスタッフが出会ったエピソードなどを順番にお伝えしています。



私たちの活動は会員の皆様方の会費と寄付に支えられています。
会員登録・寄付をお願いいたします。

【問い合わせ】(法人事務局)
TEL: 045-540-7422